

授業科目	＊ 老年看護学実習Ⅱ					単位	1		
履 修	必修	関連資格	高一種免(看護)			ナンバリング	NU31318J		
開講年次	3～4 年	開講時期	後期・前期	該当DP	DP2-1 DP3-1 DP4-1 DP4-2 DP5-1 DP5-2				
担当教員	吉原 悦子								
授業概要	【実務家教員担当科目】 実務家教員としての実務経験を活かし、以下の内容を教授する。 介護施設に入所の高齢者を生活者として総合的に理解し、対象の生活機能の維持・改善に向けた支援を学び、医療・福祉の連携について関心を持って考える姿勢を養う。								
学生が達成すべき行動目標	1. 介護施設の機能について理解することができる。 2. 生活機能を中心とした高齢者の全体像を捉えることができる。 3. 高齢者の生活機能の維持・改善に向けた支援に加わることができる。 4. 施設で働く看護・介護職員とのかかわりを通して、医療・福祉の連携について課題を明らかにすることができる。 5. 高齢者との出会いを契機に、自らの高齢者観をはぐくむことができる。								
達成度評価									
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考	
総合評価割合	0	0	61	5	0	34	100		
知識・理解 (DP1-1)									
知識・理解 (DP1-2)									
知識・理解 (DP1-3)									
知識・理解 (DP1-4)									
思考・判断 (DP2-1)			28	5			33		
思考・判断 (DP2-2)									
関心・意欲 (DP3-1)			11				11		
関心・意欲 (DP3-2)									
態度 (DP4-1)			6				6		
態度 (DP4-2)			16				16		
態度 (DP4-3)									
技能・表現 (DP5-1)						17	17		
技能・表現 (DP5-2)						17	17		
技能・表現 (DP5-3)									
具体的な達成の目安									
理想的レベル				標準的なレベル					
1.介護施設の機能を理解した上で、その後出会う高齢者の望ましい生活の場を問うことができる。 2. さまざまな介護・看護の現場で、介護と看護の連携について具体的に検討することができる。				介護施設の機能について説明できる。 介護施設入所中の高齢者の生活機能を中心とした全体像を描くことができる。 高齢者の生活機能の維持・改善に向けた支援に加わることができる。 看護・介護の連携に置ける課題について説明できる。 自らの高齢者観を育むことができる。					

授業計画				
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間 (分)
1	詳細は、看護学実習要項に記載する。			
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				

23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	加齢による心身の変化や高齢者の生活機能の捉え方、高齢者看護等、成人・老年看護学概論及び老年看護方法論で学んだ知識の復習を要する。			
テキスト	小山幸代：老年看護技術（看護実践のための根拠がわかる）、メヂカルフレンド社、2015 大淵律子：老年看護学－老年看護の実践（ナーシング・グラフィカ）メディカ出版、2005			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	日本バリデーション協会監修 「見当識障害のあるお年寄りとの新たなコミュニケーション法 バリデーション」DVD 26 分 エドワードファイルプロダクション制作「バリデーション入門」DVD 25 分			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	認知症高齢者グループホーム、介護型ケアハウス、特別養護老人ホームの 3 施設のいずれかの施設で実習します。それぞれ特徴がある施設ですから、日々のカンファレンスや最終日の学内まとめの時を活用して、自分が実習しない施設のことも、特に法律的な規定や施設の機能について十分理解を深めるようにしてください。			
達成度評価に関するコメント	実習初日に行なわれる各職種の人々のオリエンテーション内容を十分理解した上で、実習に望んでください。日々、高齢者とかかわるなかで具体的に浮かび上がった生活像を最終レポートに活かしましょう。評価は「老年看護学実習Ⅱ」の評価表に基づき評価します。提出された事前学習やレポートとその他（施設に入所する高齢者のライフレビューやチームの一員としてのケアへの参加度）によって評価します。			